

増補重訂内科撰要巻五

遠西 玉函 渥斯 臣 我 爾 德 兒 著

宇田川 玄 隨 骨 譯

加賀 藤井 方 亭 校 註 増 詳

第 十 二 章 第 一 節 肺 癆 症 候 論

大 小 人 常 々 其 意 不 欲 示 所 之 間 之 遠 轉 疾 効 不 如 大

小 人 常 々 其 意 不 欲 示 所 之 間 之 遠 轉 疾 効 不 如 大

增補重訂内科撰要卷五

遠西 玉函涅斯垓我爾德兒 著

宇田川 玄 隨 晉 譯

津山

男 玄真 璘

校註

加賀 藤井 方亭 俊

增譯

痲篇第十二

羅甸名「パラレイシス」
和蘭名「ラムミフヘイド」

痲ノ大較ヲ論ス

夫レ人常ニ其意ノ欲スル所ニ隨テ運轉舉動ヲ爲ス
所以ノ者ハ諸筋其職掌ヲ失ハズシテ能ク運営ヲ爲

第十七章

第十七章

第十七章

痺

セバナリ。然ルニ若シ諸筋ニ於テ多少部分ヲ問ハズ。其運動スル精力敗失スル片ハ其筋痿弱シテ運轉セズ。其部癱瘓シテ舉動セズ。唯傍人は是ヲ扶テ屈伸セシムルノミ。是ヲ名テ痺トスルナリ。○其痺ヲ發スル處ハ寒熱痛痒ヲ知覺スルノ機。減シテ麻痺スルナリ。然レ其部ニ於テ生氣ノ運_行モ共ニ廢絶スル片ハ即テ其部死壞スル_ハ故ニ是ヲ痺病ニ屬スル_ナナ_レス_レ死壞_スハ所謂壞疽ニシテ_ハ痺ニアラザルヲ云_フ

痺ノ病因ヲ論ス

全身ノ諸筋。各自ノ運動ヲ爲ス所以ノ者ハ夫ノ神經

線ナル者。腦ト脊髓トニ起リテ諸筋ニ循行彌蔓シ常ニ精氣ヲ其中ニ流通スルヲ以テナリ。故ニ腦ト痺ヲ發スル諸筋トノ間ニ於テ精氣ノ流通ヲ障遏スル諸因ハ皆痺ヲ發スル因ナリト知ルベシ。脊髓ニ於テモ雖モ寡少ナルガ故ニ常ニ腦ヨリ精氣ヲ脊髓ニ流通シテ其不足ヲ補フナリ。故ニ爰ニ唯腦ト痺ヲ發スル諸筋トノ間ニ於テ精氣ノ流通ヲ障遏スト云テ別ニ脊髓ヨリ流通スル精氣ノ障遏ヲ言ハザルナリ。○精氣ハ第七十章ニ註ス。○其精氣ノ流通ヲ障遏スル諸因一ナラス。是ヲ略舉スレバ其一ハ精氣ノ性ニ係ル。假令バ水銀ヲ誤用シ或ハ諸金坑ノ毒氣ヲ吸入スル等ニ因テ精氣ノ活潑銳靈ナル常性ヲ損敗シテ全身ニ流通普

達スル^フ便宜ヲ失ハシムルガ如キ是ナリ○其二ハ
 神經線ニ係ル^カ假令^トバ神經室ノ中ニ神經液鬱聚凝滯
 シ或ハ神經室攣縮シテ狭窄トナリ或ハ外ヨリ神經
 室ヲ壓迫スル等ニ因テ神經線是ガ爲ニ壓迫セラレ
 テ精氣ヲ其筋ニ流注スルニ足ラザルガ如キ是ナリ
 ○或ハ神經室ノ元運衰弱ナル者亦痲ノ原由トス
 線^{神經室}神經液共ニ第四章^{第十七章}出^神
 經室ノ元運トハ^{神經室中}自然ニ具ル所ノ生活ノ運
 動ニシテ是ヲ以テ^{神經線}ニ流通スル精氣ヲシ
 テ健運セシムルナリ生氣ノ說第七章ニ註ス^{其故}
 ハ動血脉ノ血常ニ腦中ニ升騰シ其健運推盪ノ勢力
 ニテ精氣モ亦能ク活潑健運ヲ致スト雖モ是レ唯

痲章

經線ノ原本ノミニ在ル事ナレバ其神經室ノ生氣ノ
 元運ヲ以テ是ヲ資輔スルニ非レバ精氣ヲシテ爾^レク
 纖細ナル神經線ヲ流通シテ皮表四末ノ遠ク相隔チ
 タル諸部マデモ普達セシムルニ足ラザレバナリ
 痲ノ分別ヲ論ス
 全身ノ諸筋固ヨリ其種類ノ一ナラザルガ故ニ設^タ使^ヒ
 其病因ハ異ナラズト雖モ其發スル所ノ痲ニ於テハ
 許多ノ種類アリ然^レモ外敷藥ヲ用ルニ至テハ其患部
 ノ筋ニ循行スル所ノ神經ノ起原ニ施スヲ緊要トス
 直ニ其痲スル處ニ施ス片ハ毫モ効驗アル^トナシ是

其病原ハ筋ニ在ラズシテ神經ニ在レバナリ○凡ソ
 痺ヲ發スルヲ我意ニ隨テ運轉舉動スル部ノ諸筋ニ
 於テスルカ由ニ運轉舉動スル部ノ諸筋ヲ云是レ醫
 範提綱ニ所謂意識神經或ハ生氣ノ元運ニ係ル部ノ
 諸筋ニ於テ發スルカ腦或ハ心藏ヲ云是レ我意ニ隨
 ナリ是レ醫範提綱ニ所謂運或ハ各自政ヲ異ニスル
 化神經ノ循行スル諸部ナリ或ハ各自政ヲ異ニスル
 ノ運營ヲ爲ス部ニ於テ發スルカヲ能ク診察シテ分
 別スルヲ肝要ナリ○假令バ心藏ニ於テ精氣ノ灌注
 ヲ失テ痺ヲ發スルガ如キハ心藏其血ヲ一身百體ニ
 循環スルノ機廢絶シテ其人卒ニ死ス是レ痺ヲ生
 ノ元運ニ係ル

部ニ發スル者ニシテ世ニ云卒中風ナリ各自異政ノ運營ヲ爲ス部ニ發
 スルガ如キハ假令バ肺藏ニ痺ヲ發スレバ喘息氣急
 ヲ患ヒ胃或ハ腸ニ發スレバ飲食尿等ノ諸物皆轉送
 セズシテ腸ニ滯積ス是ニ於テ人オモヘウ以爲ク胃腸ニ一箇
 ノ壅塞セル處アリテ然リト是レ胃腸ノ閉塞スル處
 アルニ非ズ唯頑痺シテ
 夫ノ腸ノ蠕動機轉カク○斯ノ如キ諸件ヲ悉ク斯ニ歷舉
 ヲ廢失スルナリセント欲スレバ甚ダ浩博ニ涉ルガ故ニ予唯痺ヲ治
 スル一種ノ藥方ヲ舉ダテ幾多ノ痺モ亦是ヲ以テ療
 スベキヲ示スノミ

痺ノ治法ヲ論ス

第八十章

此篇ノ要略ナル。悉ク痲ノ諸因ニ蹤蹟シテ各種ノ治法ヲ示ス。能ハズ。是レ予ガ著ハス所ノ簡易方中ニ説ガ如シ。故ニ爰ニ唯。常ニ多ク患ル所ノ症ヲ載ス。○此病。神經室ノ元運。衰弱セルヨリ發スル。一ヲ察セバ。其精氣ヲシテ循行ノ勢ヲ壯ニシテ諸筋へ灌注セシムルヲ緊要トス。此症ハ神經液ノ凝滯シテ猶留スル。一殊ニ神經節ニ在リ。神經節ハ神經ニ具ル所ノ塊節。節アリテ枝極ヲ分ツ如ク神經節ヨリ是レ生氣ノ元支別ヲ分チテ諸部ニ循行スルナリ。是レ生氣ノ元運。微弱ナルニ因テ神經液。健運セズ自ラ神經節ニ凝滯シテ猶留シ。其狀。粘痰ノ凝結セルガ如シ。又此凝滯

ヲ以テ神經節中ノ神經線ヲ壓塞シテ逾精氣ヲシテ灌注セザラシム。○痲ヲ治スル藥劑ハ第一。神經劑。此ハ凡ソ芳香。辛温。揮發。竄透ノ藥品ナリ。是ヲ一ニ頭腦劑。或ハ強心劑ト名ク。蓋シ神經衰弊ノ其充張ノ精力虧損シ。運動怠慢ナルハ神經液。其中ニ凝滯ノ壅塞ス。故ニ此劑ヲ用テ神經並ニ神經液ヲ揮發衝動ノ充張セシメ。其壅塞ヲ開達ノ活潑流利セシムルナリ。其藥品數種アリ。一ハ芳烈辛温ノ植物假令ハハルナリ。一ハ淡刺那迷迭香。甘松。香刺。鹿角。鹽。鹿角。精。確。砂。精。琥珀。一ハ揮發鹽及ビ精假令ハ鹿角。鹽。鹿角。精。確。砂。精。琥珀。精。揮發。香。麝。精。ノ如シ。一ハ製。造。油。類。假令ハ桂。油。丁香。香油。迷迭。香油。豆。蔻。油。刺。薔。兒。油。橙。皮。油。或ハ技。爾。撒。謨。字。露。及ビ。格。律。霍。ノ。如シ。一ハ。動。物。ノ。出。ル。第。二。衝。動劑ナリ。凡ソ身體ヲ刺戟衝動スル片ハ自ラ生氣ノ運動ヲ増發スルカユ工ニ是ヲ以テ自然良能ノ常道

ヲ扶助スルナリ。良能常道ノ説第四章第七章ニ出ツ
 云。是ヲ以テ其汚液ヲ驅除スルノミナラズ其振蕩衝
 動ノ滯爲ニテ自然良能ノ元運ヲ誘起喚發シ以テ神
 經液ノ凝聚ノ神經中ニ壅滯鬱積スルヲ驅逐解散セ
 シムルナリ。○誘嚏藥ハ昏睡篇第百八章ニ出ヅ吐劑
 ハ熱病篇第十第三章解疑劑ナリ。是ヲ以テ神經液ノ凝
 聚鬱結ヲ解釋ノ流渙セシムルナリ。此劑ハ粘稠凝結
 流ノ壅滯ナカラシムルナリ。是ハ温煖解疑ノ効アリ
 テ瀉下ヲ兼ル劑ヲ云。假令ハ盧會蕪甘沒括謨藥刺巴
 藤黃等ノ劑ニ甘汞或ハ石鹼ヲ加ルカ如シ或
 ハ萎黃病篇第二十章ノ健胃丸ヲ用ルモ亦良。○是ヲ
 以テ次ニ列スル摩油方良驗アリ

散痲摩油方

老利兒油

一弓半

痲ヲ治スル摩油ノ方

的列底那 四錢

拔爾撒謨字露

礪砂精 各二錢

右件調勻シ神經節ノ結腫アル處ニ摩擦スル。日
 ニ二三回。○預シメ能ク内景解剖術ニ精通シテ患
 部ノ諸筋ニ循行スル神經ノ起原ヲ叢知スベシ。假
 令ハ腕。臂。痲スル片ハ右ノ藥ヲ兩肩胛ノ中央ニ直
 ル處ノ脊椎ニ擦リ。或ハ脚。痲スル者ハ是ヲ腰部ノ
 脊椎ニ擦ル等ナリ

○東方諸國ニ於テハ一種ノ痲。所謂痿弱ノ症ヲ患ル

コト甚ダ多シ。其地ニ是ヲ白栗白栗ト云。此病多クハ
神經液。殊ニ神經節ニ在リ。其故ハ患者炎熱ヲ冒シ或
ハ慄悍熱性ノ酒漿ヲ過飲スルニ因テ神經液甚ダ稀
薄散渙スル後。忽チ寒涼ノ氣ニ値テ假令ハ露天ニ睡
臥シ或ハ寒冷ナル石上ニ眠ル等ニテ神經液卒ニ凝
泣シテ行ラズ其處ニ滯著シ。是ヲ以テ神經線ヲ壓塞
シ。精氣ヲシテ諸筋ニ灌注セザラシム。是ニ因テ其人
肢節痿弱シテ動作ニ力ナク。其意ノ欲スル所ニ隨テ
運轉舉動スルヲ能ハサルナリ。神經液ノ說第四十六
章ニ出ツ。精氣ノ說第
七十章
○但其凝結セル神經液。腐壞セズシテ久クモ

處ニ滯著スルハ患者其病ヲ齎ナガラ多年死セズ
シテ世ニ在ル者儘コレアリ○治法前ニ説ク所ニ異
ナラズ。唯其摩油方中ニ於テ香竈ノ油的列並底那ヲ
技爾撒謨
稍増加ヘテ其温煖ノ性ト刺戟衝動ノ力トニ頼テ凝
固底著スル神經液ヲシテ更ニ稀釋流渙セシムベキ
ノ云

増註 遠西名醫斯篤兒屈ノ内科書痲篇ニ云。此病形
貌憔悴セズ患部稍觸知アリ肢體温煖ナル者ハ法
ノ如ク療スレバ半バ治シ或ハ回復スル者アリ。否
ル者ハ治シ難シ○凡ソ痲ハ靈液精減耗シ若クハ

凝滯シテ知覺活動ノ機轉ヲ失フ病タルニ論ナシト雖モ唯其衰弱ノミヲ的識シ概ノ辛熱香竅ノ神經劑ヲ投スレバ害ヲ致ス者居多故ニ先ツ患者ノ稟賦體質ノ強弱ヲ察シ諸症ニ蹤蹟ノ病原ヲ考索スルヲ專務タリ○大抵脉強實ニノ較著ノ虛候ナク或ハ多血ノ症アル者ハ速ニ刺絡ヲ施シ其症ニ隨テ左ニ舉ル清涼和解劑ヲ選ニ用フベシ

蘆根涼解飲

- 蘆根 二匁
- 酸模根 四錢

右到水適宜煮ルコト四分時。漉過シ其液二比ヲ取リ
左ノ藥ヲ加フ

消石 一錢

覆盆子舍利別 名 二匁

右調和シ一時ニ一碗宛服ス

過爾託亞涼解飲

過爾託亞根 名 一匁
 過爾託亞葉 二握
 右到水適宜煮ルコト四分時。漉テ其液一比半ヲ取リ
 左ノ藥ヲ加フ

消石 一錢

屋施蔑兒 名 二弓

右調和シ一時ニ一碗宛微温ニ服ス

接骨涼解飲

接骨木傑列乙 名 二弓

接骨木花水 名 八弓

橙汁舍利別 名 一弓

消石 一錢

右調和シ一時ニ二匙宛服ス

李實涼解飲

李肉 乾者 二弓

大麥 一弓半

酒石英 名 二錢

右剉水適宜煮ル下四分時。漉テ其液一升半ヲ取リ

左ノ藥ヲ加フ

消石 一錢

覆盆子舍利別 名 一弓半

右調和シ一時ニ一碗宛服ス

答末林度涼解飲

答末林度 名 二弓

過爾託亞根 一弓

右剉水適宜。煮ル七八分時。濾テ其液一匕半ヲ取リ
左ノ藥ヲ加フ

消石 一錢半

橙汁舍利別 一弓

右調和シ半時若クハ一時ニ一碗宛服ス

○大便秘結スル者ハ左ノ劑ヲ擇ニ用テ通利ヲ取
ルベシ

旃那酒石飲

旃那葉 四錢

酒石英 二錢

滿那 一弓半

右搗碎キ磁罐ニ入レ。沸湯半匕ヲ加ヘ蓋閉シ浸ス
四分時。濾過ノ滓ヲ去リ一服トス

酒石散

酒石英 一錢

右一服トシ半時毎ニ用フ大便利スルヲ度トス

雙酒石散

酒石英

孕礬酒石 各半錢

右調和シ一服トス

○右件諸劑其症ニ隨テ適宜ニ擇ミ怠ラズ連服スレバ患處刺痛ヲ覺エ或ハ流走痛ヲ發メ此病全治スル者少カラズ其痛ヲ發スル時ニ於テ毛布ヲ以テ頻ニ患部ヲ摩擦スベシ○其脉強實ナラズ衰弱ノ候多キ者ハ遂ニ揮發竅透ノ神經劑ヲ試ムベシ其症ニ隨テ左ニ舉ル藥劑ヲ選ミ用ヘシ

護謨壯神丸

瓦爾捺奴謨 各一錢半
護謨安沒尼亞幾 各一錢半

龍腦

葛私多樓謨 各十五瓦

律比丸料 半錢

琥珀 丁幾告爾 適宜

右調和シ三瓦ヲ一丸トシ每服三丸日ニ三回芸香湯一碗ヲ以テ送下ス

芸香湯

芸香
默栗薩葉 各一握
捲埵兒 迷迭香ノ條ニ出

右剉泡劑トス

石鹼壯神丸

勿搦祭亞石鹼 各二錢

護謨安沒尼亞幾 各二錢

沒藥 半錢

律比丸料 二刀

琥珀丁幾去爾 適宜

右調和シ三氏ヲ一丸トシ每服三丸日ニ用テ三次

失鳩答壯神丸

失鳩答越幾斯劑 各一錢

勿搦祭亞石鹼 各一錢

護謨安沒尼亞幾 各一錢

律比丸料 半錢

越栗失爾剝祿布利怛 適宜

右調和シ三氏ヲ一丸トシ每服三丸日ニ用テ三次

○以上三方ノ丸劑脾病子宮病ノ肝脾等ニ於テ壅

塞硬腫ヲ兼ル諸症ニ良効アリ

龍腦壯神丸

龍腦 三錢

燒酒 再餽者適宜

右二味研和ノ固カタキ泥ト爲シ三瓦ヲ一丸トシ每服二丸。日ニ三次用フ。効アレハ漸ク其量ヲ加フ

雙鸞壯神散

雙鸞菊。越エ幾斯劑。半瓦或ハ一瓦。○此草ノ莖葉ヲ取テ越幾斯劑ト爲ス。

製法カブト 出ツ

沙糖 十瓦

右研和シ極細末ノ一服トシ日ニ二服或ハ三服ヲ用フ
○右ノ丸劑ヲ用ル間ニ芸香湯出前ニ或ハ左ニ舉ル湯液ヲ擇ベシ用フ

默栗薩湯

默栗薩葉一握

白芷

羌活 漢種者 各一錢

右剉ズ磁罐ニ入レ。沸湯ヲ加ヘ蓋閉シ浸スコハシトキ四分時。濾テ其液一匕半ヲ取リ左ノ藥ヲ加フ

覆盆子 舍利別 一弓半

密涅刺爾鎮痛液十五滴

右調和シ一時毎ニ一小茶碗ヲ服ス

額草湯

額草根 二錢

右判磁罐ニ入レ。沸湯ヲ加ヘ蓋閉シ浸スコハントキ。四分時。濾テ其液一匕ヲ取り左ノ藥ヲ加フ

橙皮舍利別名 一匕

右調和シ一時ニ一小茶碗宛服ス

○香竈ノ露精ヲ以テ頻ニ患部ニ擦スベシ左ノ方尤効アリ

散非水

茉沃剝那水名 一ク

山箭菊精名 一ク

的列竝底那精名 二錢

右調勻ス

○右ニ列ル神經劑ヲ用テ患者頭胸焮熱シ或ハ内部煩熱ヲ覺エ。脉駛數ニ血液沸騰ノ候アル者ハ芸香湯。默栗薩湯。纈草湯ノ如キ香竈ノ飲液ヲ休テ過爾託亞涼解飲出。或ハ乳清名ヲ用ヒ或ハ左ノ劑ヲ用フベシ

過爾託亞煎

過爾託亞根名 一ク

過爾託亞葉 一握

右剉水適宜。煮ルト八分時。濾テ汁ヲ取り左ノ藥ヲ

加フ

過爾託亞花 一握半

甘草 四錢

右浸ス_一八分時。濾テ其液二匕ヲ取り微温ニシ。一時毎ニ一小茶碗ヲ服ス。○大便秘スル者ハ前ニ舉ル下劑ヲ擇ニ用フベシ

○患者多血ノ候ナク寒性或ハ粘稠液過多ニノ肢體瘰然タル者ハ左ニ記ス劑ヲ擇ニ用フベシ

董薺昆設爾弗

紫董薺昆設爾弗

碎米薺昆設爾弗 各一多

霸王鹽 三錢

右調和シ一時或ハ一時半ニ一小匙宛用フ

菴薺昆設爾弗

山菴菜昆設爾弗

碎米薺昆設爾弗 各一多

右調和シ一時半ニ一小匙宛與フ

海葱昆設爾弗

海葱蜜 四多

藥刺巴

霸王鹽

纈草根 各一錢

右調和シ大人ハ每服一匙。日ニ四次。小兒ハ一時ニ一小匙宛服ス

此症。右ノ劑ヲ長服ノ全治セザル者ハ前說ノ神經劑ヲ用テ効アリ○患部ニ發泡膏ヲ貼シ或ハ茶沃刺那水ヲ以テ日ニ兩回患部ニ擦スベシ

○肺藏粘液過多ニノ喘急或ハ効ヲ發シ肢體各部痲ヲ發スル者ハ解凝劑ヲ用テ痰ヲ吐セシムベシ其肺病ノミナラス痲モ亦隨テ治ス此症ハ過爾託亞涼解飲出ツニ或ハ左ノ數方ヲ擇ミ用ベシ

解凝屋施蔑兒

屋施蔑兒

麗春花。舍利別 各一多半

消石

安質沒扭若波列 不洗者 各一錢

右調和シ一時ニ二匙宛過爾託亞涼解飲出ツニ或ハ左ノ接骨木湯一碗ヲ以テ送下ス

接骨木湯

接骨木花

錦葵葉 各一握半

右劉沸湯ニ泡シ茶湯ノ如ク用フ

解凝舍利別

海葱 二弓

麗春花 舍利別 一弓

苗香水 八弓

消石 半錢

安質沒扭若波列 不洗者 一錢半

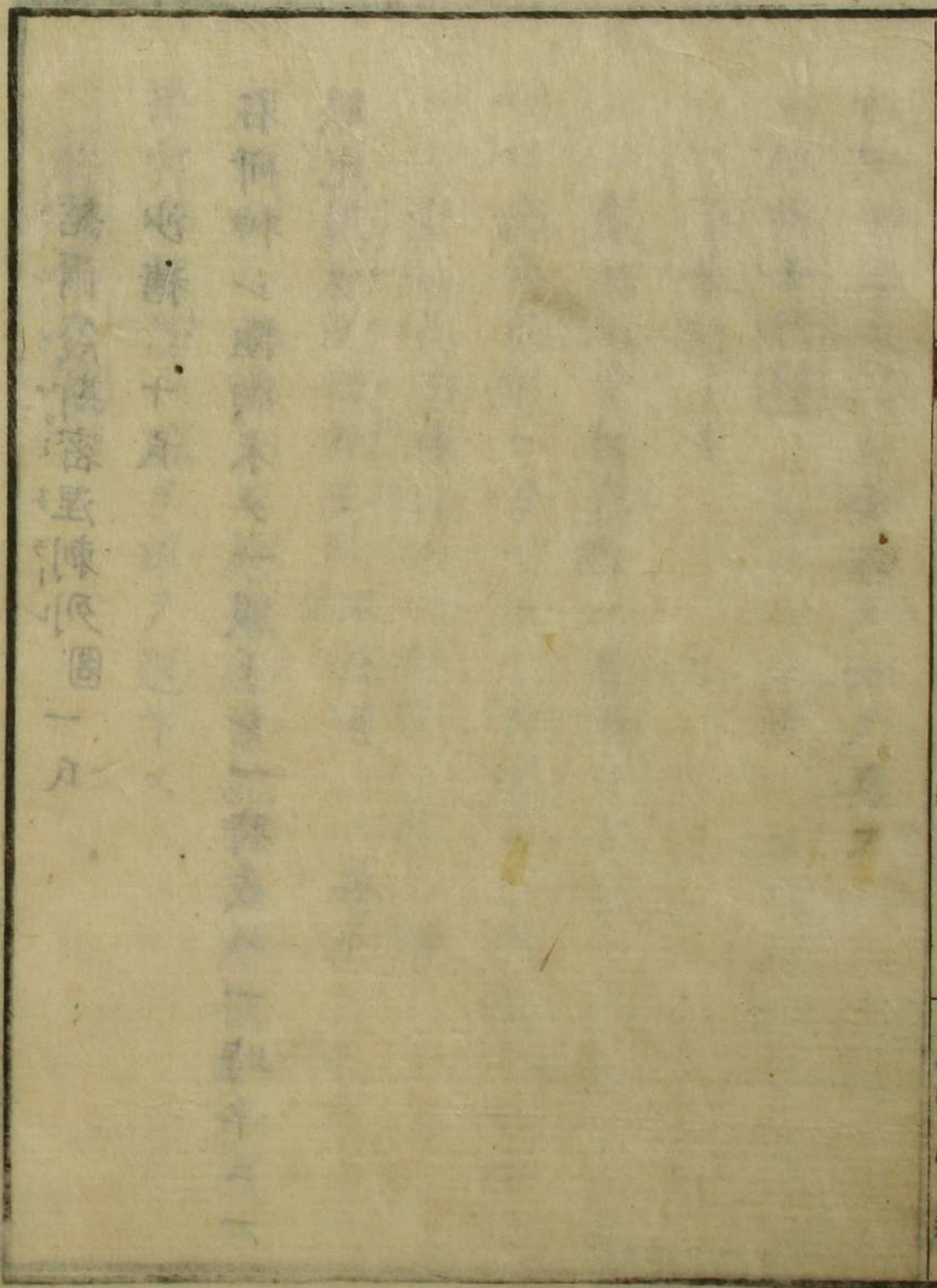
右調和シ一時ニ二匙宛過爾託亞涼解飲出ツニ或ハ接骨木煎湯一碗ヲ以テ送下ス

解凝化痰散

結爾蔑斯密涅刺列 一瓦

沙糖 十瓦

右研和シ極細末ノ一服トシ一時或ハ一時半ニ一服宛用フ



水腫

水腫篇第十三

羅旬名「ヘイドロプス」和蘭名「ワトルヒク」

水腫ノ大較ヲ論ス

夫レ平全ノ身體ニ在テハ諸腔中ニ蒸氣アリテ發出
 シ脂膜中ニハ脂肪アリテ充ツ諸腔ハ頭胸腹ノ
空間ヲ爲ス處ヲ云其腔ノ裏面周圍ヨリ常ニ蒸氣ヲ
發出スルナリ惣身ノ皮ト肉トノ間ニ周ク脂肪アリ
テ脂肪充ツ或ハ内部然ルニ水液若クハ粘稠液其諸
諸藏ニモ亦コレアリ
 腔或ハ脂膜中ニ聚リ或ハ水脉ニ於テ水液若クハ粘
 稠液アルヲ過多ナルクハ其部腫脹ヲ爲ス。是ヲ名テ
 水腫ト曰フ。○其腫或ハ滿肢體ニ發シ或ハ各部ニ發
 スルヲ以テ其名稱多端ニシテ多クハ其部位ト病症

トニ適當スベカレズル許多ノ濫名ヲ設ケ。毎ツキニ次彼此相混シテ記臆シ難キニ至ル

第廿三章

水腫ノ病因ヲ論ス

水腫ノ諸因ハ予ガ撰スル所ノ簡易方中ニ歷舉セリ。甚ダ繁長ナルガ爲ニ爰ニ復マタ援引セズ。唯其常ニ多ク患ル所ノ諸症ヲ舉ゲ。治方ヲ附シテ斯ニ示スノミ

第廿三章

ヲ論ス

歷試考徵スルニ靜血脈或ハ水脈ヲ外ヨリ壓迫スル
一アル片ハ水液阻遏セラレテ懸留滯瀦シ。其部腫起

スルナリ分泌スル所ノ水液ヲ受テ諸部ニ循行シ。是
ヲ以テ常ニ諸器ヲ滋潤シ。終ニ靜血ノ血ニ注入ス。故
ニ水脈ノミナラズ靜脈ヲ外ヨリ壓迫スル片ハ其血
滯瀦シテ脈中ニ充滿スル故ニ水液懸留滯瀦シ。其部腫脹ス
注入スル一能ハズシテ水液懸留滯瀦シ。其部腫脹ス
ルナリ。外ヨリ壓迫スル片ハ其部腫脹ス
或ハ漏帶結縛等ニテ其部ノ靜脈水脈ヲ壓迫スルナ
リ。是ヲ區別スルニ靜血脈ヲ壓迫スル片ハ其部青色
ヲ發シ。脈絡黯青ナルヲ恰モ靜血脈破綻セルガ如シ
凡ノ靜脈ハ表ニ在テ皮下ニ見ハル。打撲傷ノ青斑ハ
靜脈破綻ノ其血。皮下ニ泛溢セルナリ。其部斯ノ如ク
青色トナ
ルヲ云
水脈ヲ壓迫スル片ハ其部。唯黧澹色ニシテ
水ヲ以テ充ルガ如シ。○孕婦ノ脚腫。胎兒腹部ヲ壓迫
脈。水脈ノ諸液。上行還流シ難ク。或ハ諸藏頑硬結腫シ
ニテ瀦留シ脚腫ヲ發スルナリ

テ此ニ屬スル靜血脈。若クハ水脈ヲ壓迫スルヨリ發
スル水腫モ亦右ノ種類ニ屬スルナリ。頑硬腫ハ第ニ
註ス。併考ベシ。諸藏ノ頑硬腫ハ即チ肺或ハ肝脾腸胃
膜腸胃脾腎等ノ諸藏壅塞シテ頑硬結腫スルナリ。其
部位ト症候トニ由テ何ノ藏ニ在リヲ察ス。然レ概シ
テ言ハ漢人所謂癥瘕積塊ニシテ患者虛羸シ終ニ水
腫ヲ發スル。○故ニ諸藏及ビ腺ノ頑硬腫ヨリ發
スル水腫タルヲ察セバ唯其頑硬腫ノ療法ヲ用テ
治スベシ。諸利水ノ劑ヲ用レバ百計スレバ効驗ナク
レバナリ。

藥古章

水腫。喩尿管ノ障碍ニ因ルノ治法ヲ論ス
身體ノ諸腔ニハ天資自然ノ蒸氣即チ湛露アリ。其實

清稀ニシテ水ノ如ク日常動血脈ノ端末ト神經ノ端
末ヨリ滲出ス。○其諸腔ニ滲出セル湛露ハ平全ノ人
ニ在テハ常ニ喩尿管ニテ喩收シテ是ヲ水脈ト靜血
脈トニ分輸シ去ルナリ。故ニ其湛露隨テ聚レバ隨テ
喩收シ。滲利便捷。曾テ濡滯アルヲナシ。周身ノ皮膚並
諸空隙ヲナス處ハ淺深廣狹ヲ論セズ。生氣血液運化
烹釀ノ勢ニ由テ自ラ蒸氣ヲ發泄ス。但シ内部諸腔ニ
於テハ皆密閉セル處ナレバ蒸氣ヲ凝聚シテ湛露
トナルナリ。身體表發ノ蒸氣モ發泄スルヲ過多ナレ
バ凝聚ノ汗トナルガ如シ。○喩尿管ハ靜脈ノ末梢ヲ
以テ成ル所ノ微細ノ管ナリ。或ハ岐シテ水脈ニ連ル
是レ諸腔ノ内面ニ遍ク其管口ヲ開キ。常ニ湛露等ノ
無用ノ廢液ヲ喩收シテ靜脈ト水脈トニ導輸シ去リ
是ヲ以テ常ニ新陳更代シ。○若シ喩尿管。其喩收ノ運送

第八四章 風雲堂

ヲ失フコトアルカ或ハ其管ノ端未閉塞スルカ抑亦其
 喻収スル所ノ水液甚ダ粘稠ナルカ斯ニ一モアル片
 ハ其蒸出セル水液滲利スル所ナク必ズ其處ニ濡滯
 シテ蓄積シ終ニ其部ニ水腫ヲ發スルナリ○衆人此
 喻収管ノ喻収スルカヲ失フヨリ此疾ヲ發スルコトヲ
 察セズ徒ニ以爲ク每ニ必ズ其部ノ閉塞セルヨリ發
 スルノコト夫レ動血脈ハ能ク其血ヲ健運進輸スレ
 凡其勢力ヲ以テ其既ニ諸腔ニ蒸出セル露液ヲシテ
 喻収管ノ細口ニ滲入セシムルコト能ハザルナリ動脈
健運
ノ勢力其蒸出セル露液マデニ
届リ遠スルコト能ハザルヲ云 故ニ平全ノ體質ニ於

テハ必ズ喻収管ノ元運ヲ以テ是レヲ喻収スルコト彰
 明ナリ然レバ喻収管ノ運動廢失スル片ハ水液必ズ
 諸腔ニ聚蓄セザルコトヲ得ズ○凡ソ刺戟衝動ノ諸藥
 ハ動血脈ノ運動ヲ增益スルコト多シト雖モ靜血脈及
 ビ其喻収管口ノ運動ヲ增益スルコト少ナキカ故ニ特
 ニ此疾ニ的當トシ用ルニ足ラズ是ヲ以テ唯左ニ列
 スル所ノ劑ヲ用ヒテ靜血脈ノ運動ヲ扶テ増進セシ
 ムベシ○若シ水腫ノ部ニ琶布ヲ外敷シテ堪ルコトヲ
 得ル者ハ左ノ方ヲ施スベシ

驅水散腫ノ琶布方

驅水琶布方

薄荷葉

亞爾鮮葉アアルセム 各一握

玫瑰花 二撮

桂

乳香 各一錢

右件合シテ蒸餅ノ中心。軟ナル處ト赤葡萄酒トヲ加テ琶布パッブニ作り。温ニ乗シテ患處ニ罨貼シ。日ニ再

ビ更換ス

或ハ次ノ散劑ヲ外敷スルモ亦良

驅水散腫ノ外襯散ノ方

驅水外襯散

乳香 日二錢

格碌波尼亞コロボウニア 四錢

結麗土ケレイト 二匁

玫瑰花 四錢

右件末トシ合和シテ多少適宜ニ取り。小巾ヲ温メ乾シテ藥末ヲ其上ニ摻敷シ。患所ニ襯ス。數回更換スベシ。少キモ日ニ兩度ハ關カケベカラズ。若シ患部廣クシテ外襯スルモ廣大ニスベキ者ハ是ニ糠ヲ混和シ布袋ニ盛テ襯貼スベシ。若シ内服藥ヲ用フベキハ小水ヲ利シ且ツ強壯ナ

ラシムル劑ヲ良トス

壯運水楊梅飲

水楊梅根 一弓

良薑 四錢 一種小者

杜松實 一弓

刺發斯子 四錢

薄荷葉 二握

右件調勻シ勃的利斯ハツテリス 一箇半ノ赤葡萄酒ヲ以テ浸シ藥氣ヲ泡出シ小ナル爾默兒苴ルイメライチニ一盞宛服スルヲ日ニ四次

第五章

水腫。靜血脉ノ運動衰弱ニ因ルノ治法ヲ論ス
夫レ血ヲ遍身百體ニ流注運輸スルノ當ニ心藏コレ
ガ宗源タルノミナラズ。又動血脉ノ元運ヲ以テ是ヲ
扶テ其血ヲ推盪轉輸スルニ因ル。其血液環廻シテ復
心藏ニ還入スルノ當ニ心藏及ビ動血脉ノ元運ニ係
ルノミナラズ靜血脉ノ元運モ亦是ヲ資輔スルナリ
○若シ其靜血脉ノ血液ヲ復行還輸スル元運ノ精力
甚ダ衰弱スルキハ其復行ノ血液健運セズシテ殊ニ
靜血脉ノ諸末梢。纖支別ニ滲積シ。且是ニ連ル水脈ニ
於テ水液滯滯ス。故ニ上ニ説所ノ靜血脉ヲ壓迫スル

症ト其趣ヲ同フスル者ナリ第八十三然レバ静血脉ノ元運衰弱ナル片ハ肢體各部或ハ惣身モ亦能ク水腫ヲ發スルガユエニ此症ニ於テハ静血脉ノ元運ヲ增益スルニ非ザレバ全ク治セズト知ルベシ○若シ其水液ノ聚ル_一太甚ナラザル者ハ治法先_一第_一八_一四章ニ舉ル藥ヲ用ヒ從テ患者ヲシテ毎日數次桂ヲ取テ少許宛咀嚼セシメ又身體ヲ運動シ且ツ數摩擦スベシ是ニ由テ静血脉ノ運動ヲシテ大ニ能ク强健ナラシムルナリ是レ静血脉ニハ心藏ニ歸納スル血ヲシテ退轉却行セザラシムルガ爲ニ其脉管中ニ障

膜ヲ節次シ是ニ由テ血液其送迎開闔ニ聽_一ヒ等ヲ逐ヒ級ヲ拾_一テ然_一ノ後前行スル_一ヲ得ルガユエニ其血速ニ循行シ易カラザレバナリ○其血ヲシテ更ニ逾健輸セシムベキガ爲ニ次ノ薰摩方ヲ施シテ其治ヲ羽翼スルヲ良トス

水腫ヲ治スル薰摩方 **利水薰摩方**

乳香若クハモシ鵝栗バ技奴ム或ハ蘇合香ノホカ自餘斯ノ如キ類ヲ熾炭ニ撒シケ毛布ヲ取テ其煙氣ヲ薰シ受テ患處ヲ摩擦ス

水腫粘稠液ニ因ルノ治法ヲ論ス

蓋シ平全良性ノ血液ト雖モ運行流動スルヲ希少怠
慢ナル片ハ自ラ相聚テ凝結スル性アリ○體中一切
ノ脉管諸道ニハ必ズ自然天造ノ滑液アリテ其裏面
ニ周布シ。是ヲ以テ血液ヲシテ滑脱流利シテ蹇澁凝
泣ノ患ナカラシム○若シ良性ノ血液ト雖モ運行流
動スルヲ希少怠慢ナルカ或ハ其天造ノ滑液過多ナ
ル片ハ一箇ノ粘液腫ヲ生スルナリ。此症ハ先ヅ其粘
稠ヲ稀釋シ凝結ヲ疏解スル劑ヲ用ルニ非ザレバ治
スルヲ能ハザルナリ

解凝驅水酒

粘稠ヲ稀釋スル藥酒ノ方

亞爾鮮葉 二握

珊篤里草 一握

杜松實 一弓

酒石鹽 二錢

右件勃的利斯ニ一箇半ノ葡萄酒ニ浸シ。藥氣ヲ泡
出シ。爾默兒苴ニ一盞宛服スルヲ日ニ四次

水腫水液過多ニ因ルノ治法ヲ論ス

若シ右ノ方法ヲ用テ諸液ヲ稀釋スト雖モ其腫速ニ
消散セザル者ハ是レ體中水液過多ニシテ元運生氣
是ヲ導泄驅逐スルヲ能ハザル候トス○爰ニ是ヲ治

スルノ數方ヲ列ス。宜ク擇ニ用フベシ。○第一ニ吐劑ナリ。方ハ第十五章ニ見エタリ。是レ粘液。胃中ニ充塞スルカ或ハ吐シ易キ患者ニ用ヒテ良功アリ。惡心嘔吐云ル。舌サレバ許多ノ煩悶ヲ生シ。吐シテ後。多ク罷勞スレバナリ。○第二ニ下劑ナリ。左ノ方効アリ。

瀉水丸ノ方 瀉水丸

瓦爾拔奴謨 一錢

蘇甘沒扭謨 各半錢

藥刺巴華爾斯 各半錢

酒石鹽 一刃

葛縷子油 葛縷子油 五滴

右件調勻シ。每一錢。二十丸トシ。三丸宛用ル。一日ニ三次。是ヲ用テ患者。圍ニ上ル。一日ニ三回ヲ度トス。故ニ下利ノ多少ヲ視テ服度ヲ増減スベシ。○患者甚ダ虚脱スルニ非レバ。此劑ヲ變ゼズ長ク用ヒテ。其剩餘過多ノ水液ヲ多ク驅除スベシ。○若シ患者虚衰スルヲ以テ。右ノ劑ヲ用フル間ニ。一ニノ強壯劑ヲ交遞シテ用フベキ症ナル片ハ。其兩効ヲ兼タル藥劑ヲ用フベシ。左ノ劑良驗アリ。

運行ヲ壯ニシ。大便ヲ利スル飲劑方 壯運瀉水飲

白芷

水楊梅根 各一多

薄荷葉 二握

旃那葉 半多

酒石鹽 二錢

右件調勻シ。勃的^{ボツテ}利斯^{リス}ニ一箇^{ヒトツ}ノ葡萄酒ニ浸シ。藥氣ヲ泡出シ。爾^ル默兒^{メル}苴^サニ一盞^ツ宛服スル。日ニ三次。患者ノ通利。平常ニ比スレバ稍^ヤ多キヲ度トシ増減シテ用フベシ。

○第三ハ利尿劑ナリ。是ヲ以テ小水多ク通スルキハ

最モ良トス。大便ヨリ瀉スルニ比スレバ患者衰弱セザレバナナリ。則^ナ第八十四章ニ出ス所ノ運行ヲ壯^ユシ小水ヲ利スル藥酒方ヲ用ベシ。或ハ上ニ記ス所ノ大便ヲ利スル飲劑中ノ旃^{セン}那^ナ葉一味ヲ除テ用レバ衰弱ヲ強壯ニシテ小水ヲ利スルガ故ニ。病治シテ後再發ノ患ナシ。○右ノ藥酒或ハ飲劑ニ桂ヲ加テ藥氣ヲ出シ用レバ益良効アリ。凡ソ桂ハ此病ニ用ヒテ衰弱ヲ強壯スル一大貴品ナレバナナリ。

增補重訂内科撰要卷五終

北言內秘撰要

卷五

二十七

風雲堂

此言內秘撰要卷五
 二十七
 風雲堂
 此言內秘撰要卷五
 二十七
 風雲堂
 此言內秘撰要卷五
 二十七
 風雲堂

